

問1 1985年以降、日本の自動車メーカーなどの製造業において、アジア諸国での現地生産台数が急激に増加しました。このような生産拠点の移転が進んだ背景について、当時の為替相場の状況と企業の目的を組み合わせた説明として最も適切なものを次の中から選びなさい。 (2016年

滋賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 円安の進行によって原材料の輸入価格が高騰したため、国内の雇用を守りながら貿易赤字を解消することを目的に進出した。 | 2. 円高の影響で海外製品の輸入が増したため、国内の労働力不足を補う目的でアジアの工場から日本へ労働者を呼び寄せるために進出した。 | 3. 円高の進行によって日本からの輸出が不利になったため、コストを抑えるための安価な労働力と、将来有望な新しい市場を求めて進出した。 | 4. 円安によって輸出競争力が極めて高まったため、さらに生産量を増やすためにアジアの広大な土地を求めて進出した。 |
|---|---|--|--|

問2 梅の代表的な品種である「南高梅」は、その利用状況において約八十八パーセントが梅干し用として活用されています。一方で、新品種である「露茜（つゆあかね）」の統計を確認すると、飲料用としての利用が約八十六パーセントを占めています。このように、露茜が従来の品種とは異なる独自の市場を形成している理由として、最も適切な記述を選びなさい。 (2025年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|--|--------------------------------------|
| 1. 果肉まで赤く染まる特性と控えめな酸味を持ち、加工適性が高いため | 2. 他の梅の品種に比べて非常に小粒で、梅干し加工が困難であるため | 3. 収穫時期が冬であるため、他の果実が不足する時期の貴重なビタミン源となるため | 4. 病害虫に非常に強く、農薬を一切使わずに栽培することが可能であるため |
|------------------------------------|-----------------------------------|--|--------------------------------------|

問3 日本の関東地方から静岡県、愛知県、近畿地方、瀬戸内海沿岸を経て北九州にかけて、太平洋側の沿岸部に沿って帯状に連なっている工業地帯や工業地域の総称を答えなさい。 (2016年 三重県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------|------------|------------|----------|
| 1. 太平洋ベルト | 2. シリコンロード | 3. 瀬戸内工業地域 | 4. 中央構造線 |
|-----------|------------|------------|----------|

問4 日本において明治時代から活用されている発電方法の一つで、ダムなどを建設して生み出した地形の高低差を利用し、水の流れでタービンを回して発電する方式を何というか、次の中から選びなさい。 (2022年 和歌山県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 火力発電 | 2. 風力発電 | 3. 水力発電 | 4. 地熱発電 |
|---------|---------|---------|---------|

問5 日本の農業が抱える「担い手不足」や「労働負担の増大」といった課題を解決するために進められている、ドローンやAIなどの先端技術を活用した新しい農業のあり方を何と呼びますか。 (2025年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|-----------|---------|
| 1. 有機農業 | 2. 近郊農業 | 3. スマート農業 | 4. 地産地消 |
|---------|---------|-----------|---------|

問6 日本の農業において、電灯の光などの技術を利用して作物の成長をコントロールする取り組みが見られます。例えば、愛知県や沖縄県で行われている、菊の開花時期を通常より遅らせて出荷時期を調整する栽培方法を何といいますか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 工芸作物 | 2. 近郊農業 | 3. 促成栽培 | 4. 抑制栽培 |
|---------|---------|---------|---------|

問7 日本の果実市場において、国内生産量が減少する一方で、輸入量が増加または一定水準を維持するようになった背景にある出来事として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 静岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|---|---------------------------------------|
| 1. 政府が米の増産を優先するため、果実農家をすべて稲作に転換させたこと。 | 2. 食生活が変化し、日本国内で果実の消費が全く行われなくなったこと。 | 3. オレンジなどの貿易の自由化が進み、外国産の果実が入手しやすくなったこと。 | 4. 冷害の影響で国内産の果実が全く収穫できなくなり、輸出を禁止したこと。 |
|---------------------------------------|-------------------------------------|---|---------------------------------------|

問8 長野県などの標高が高い地域では、夏の冷涼な気候を活かしてレタスなどの野菜を栽培しています。平地の産地からの出荷が少なくなる夏から秋にかけて出荷時期を調整する、この農業の形式を何といいますか。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 近郊農業 | 2. 抑制栽培 | 3. 促成栽培 | 4. 有機農業 |
|---------|---------|---------|---------|

問9 日本の原油生産量は国内消費量に対して極めて少なく、その大部分を海外からの輸入に依存しているという統計的な特徴があります。このような背景から、日本において石油化学コンビナートが海岸線沿いの臨海部に集中して建設される理由として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 和歌山県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 製品を地方へ迅速に配送するために、トラック輸送の拠点となる高速道路のインターチェンジに近接させるため。 | 2. 内陸部での騒音や大気汚染による公害問題を避け、広大な土地を安価に確保するため。 | 3. 原料である原油を運ぶ大型タンカーが直接岸接でき、輸入や輸送の効率を高められるため。 | 4. 原料となる原油が採掘される油田地帯に隣接させることで、国内輸送コストを抑えるため。 |
|--|--|--|--|

問10 日本の多くの自治体が、1ターンによる移住者を積極的に受け入れようとしている背景や目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 情報通信技術（ICT）の普及により、全ての職種において都市部で働く利点が完全になくなったから。 | 2. 都市部の深刻な住宅不足を解消するため、政府が都市住民の強制的な移住を計画しているから。 | 3. 人口減少や高齢化が進む地域において、新たな労働力を確保し、産業を維持することで地域活性化を図るため。 | 4. 地方の地価を都市部と同水準まで引き上げ、国全体の経済成長率を均一にする必要があるから。 |
|--|--|---|--|

問11 近年、日本の漁業は「獲る漁業」から「育てる漁業」への転換が進められています。その手法の一つとして、稚魚を放流して自然の海で成長させる方法が選ばれる理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2021年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---------------------------------------|---|
| 1. 海外の遠い漁場まで行かずに、港のすぐ近くにある生け簀の中だけで完結できるため | 2. 放流後の餌代がかからず、広大な自然の海を利用して資源を増やすことができるため | 3. 網などの漁具を使わずに、素手や簡単な道具だけで効率よく漁獲できるため | 4. 特定の魚種だけを絶滅させるために、生態系のバランスを人工的に操作するため |
|---|---|---------------------------------------|---|

問12 2014年における年齢階層別のインターネットショッピング利用率の統計において、その特徴的な傾向を正しく説明しているものはどれですか。 (2018年 大阪府公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 家事や育児、仕事などで多忙な世代を含む30代後半において、利用率が高い水準にある。 | 2. 定年退職後の時間を活用した買い物が増えたため、60代の利用率が30代の利用率を大きく上回っている。 | 3. インターネットショッピングは若者特有の文化であるため、50代以上の利用率は2002年からほぼ変化していない。 | 4. 24歳以下の若年層の利用率は、2002年時点と比較して5倍以上の開きが出ており、全世代で最大の伸び率である。 |
|--|--|---|---|